



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No. 4

「関心・意欲・態度」の学力と評価

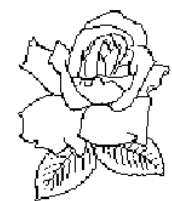
今回は、「関心・態度」の評価についての説明をしておきます。少し、むづかしいですが、よく読んでください。

たとえば、花屋さんの店先に並べられている花で考えてみると、理科的には花の品種や花や茎や葉の構造や花の成長などが課題対象となるでしょう。美術的には色彩や形が描く対象であり、国語的には「きれい。うつくしい。かわいい」などと言語(言葉)で人の感情を表現する対象となるでしょう。

社会科では、なぜ花が売れるのか。花屋という商売がいつ頃から成り立つようになったのか。花の価格が高いのはいつか、安いのはいつか、それはなぜか？などと、その他の領域の学問(教科)とは全く異なる課題対象となります。

「関心」は、「花屋の花」をより具体的に社会科学的な研究対象としてとらえ、たとえば「花という商品の価格の決定要因」を考えたり、「花屋という商売の歴史」を調査したりする意識の傾向だと、先生は理解しています(これは、ノートに調べたことを整理したりすることで、「意欲」と、「関心」の一部が現れると考えています)。

さらに「態度」は、いわゆる「授業態度」ではありません。社会事象(社会にあるさまざまな現象)の多くは、たいていの場合、何らかの意志決定あるいは価値判断を要求します。その意志決定や価値判断が、客観的・合理的で、かつ公正な過程を経て導き出すことができるかどうか、社会科学的には重要な学力内容になります。前提としている事実と「結論」に至る間の、論理と事実の指摘が、重要なポイントとなります。



たとえば、「花屋」の場合ですと、「花屋」を「歴史的事実」としてとらえ、将来でも「花屋」という商売が成り立つのかどうか、あるいは発展するののかどうかを判断しなければならないような「課題」に、自分の「結論」を考えなければなりません。そのような「事実」と、

「結論」の間において、思考される方略(方法)が、社会科の評価における(社会科学的)「態度」であると、先生は考えています。また、この「関心・態度」の学力が育ってこそ、将来、自分の責任で生きていかなければならない場面で役立つ「社会科の学力」となるでしょう。

さて、このように理解する「関心・態度」は、結論を簡単に決めることができないような問題場面に関する「作文」で、具体的に現れます。そして、「関心・態度」の学力は、「作文」に現れる社会科的な「表現力」によって測定可能になります(学力を測ることができるということ)。

今回の中間考査では、上のような課題で、作文を書いてもらいましたね。

VII 毎日の自分たちの暮らしについて、君はどんな意見を持ちますか。

次のA～Cの3つの意見のうちから、1つだけえらんで、その意見をえらんだ理由(根拠)を、かんたんに説明しなさい。ただし、意見をえらんだだけでは、点数になりません(結論は、採点対象にしない)。

意見A：日本にいる自分たちのくらしと、世界の国々の人々の生活とは関係がない。

意見B：日本にいる自分たちのくらしと、世界の国々の人々の生活とは、関係があるとも、関係がないともいえる。

意見C：日本にいる自分たちのくらしと、世界の国々の人々の生活とは、大きな関係がある。

採点基準は、右下に示した通りです。

日本の食糧自給率や、外国からの食糧がなければ成り立たない食糧事情についての指摘。あるいは、建築材・工業原料の輸入の状況などの事実の指摘があること。

外国の価格の安い商品が、日本の市場で売れることが、日本製品の販売不振につながったり、外国で製品が製造されることで、日本国内の仕事が減り、労働者の生活が苦しくなっていることなどの指摘がある。

それらについての自分の意見が説明されていることが重要である。

1 事実の指摘について、1点。自分の意見が説明できれば1点。

ちなみに、今回の課題では、Cの意見をとった人が理由を書きやすい内容になっています。

そのせいだと思いますが全受験者153名のうち、120名の人が「Cの意見」を選んでいました。

「Bの意見」を選んだ人は、8名でした。

なお、「Aの意見」を選んだ人はいませんでした。

次の「なんでやねん No.5」で、君たちの「代表作品」を「答案」そのまま紹介しますから、今後の学習の参考にしてください。